

# まちづくりビジョン策定委員会（第24回）会議録

■ 日 時：平成26年12月19日（金）午後2時30分～午後5時20分

■ 場 所：みなかみ町観光センター 2階 第1会議室

■ 出席者：

①まちづくりビジョン策定委員会（10／13名）

小林 洋、河合 生博、小野 章一、鈴木 和雄、津久井 功、持谷 美奈子、  
中島 エリ、渡辺 一彦、金子 崇範、鬼頭 春二

②アドバイザー（1／1名）

平松 庚三

③事務局（まちづくり交流課）（2／3名）

エコパーク推進室 GL 小池 俊弘、主査 大川 志向

④創生本部（総合政策課）

企画G GL 櫻井 学

■ 配布資料

資料1 各アクションプランのイメージ図

資料1-1 サッカータウン構想（案）

資料1-2 ふるさと納税を活用したマーケティング（案）

資料1-3 クロスセル、アップセルの推進（案）

資料1-4 （仮称）みなかみ観光会議（案）

■ 会議内容

---

1 開会

2 議事

(1) 各アクションプランの可視化について

- ・本委員会でこれまで議論してきた構想やアクションプランについて、執行機関や関係機関、町民などにどのように伝えていくかと議論してきたが、イラストにして可視化することで、わかりやすくなるのではないかという提案があった。複数のイメージ図

が示されているので、委員会の意図を反映しているか、また、イラストが独り歩きする可能性があるので、ほとんどの人が共通の認識を持てるかを検証していく。

## ■ 里山整備

- ・ 前回提案があった（仮称）森林資源活用プロジェクトについては、ユネスコエコパークの理念や、町民の生活をエコなものとしようとする考え方に合致するし、里山から搬出される薪を活用することは、石油を町外から仕入れる場合と違って町内で資源が循環するわけであるから、非常によいアイデアである。また、里山が整備されることで、各分野への波及効果も見込める。
- ・ 大規模な森林整備であれば国からの補助金を活用することができるが、このプロジェクトは集約が困難な雑木林の整備や林地残材の搬出、大規模間伐後の定期的なメンテナンスにおいて活用することを想定している。
- ・ この仕組みを採用する地域は全国的に増えてきているが、本町には搬出された木材の活用先として加温が必要な公共温泉施設があるし、搬出の母体として森林整備隊が結成されていることもあって、比較的導入しやすい状況にあるのではないか。
- ・ 一方で、森林所有者の高齢化や無関心が原因で、自ら木材を搬出することが期待できないとの意見もあるが、森林所有者が事前に行政に管理を委託する岡山県西粟倉村の方式を採用することでカバーできるのではないか。
- ・ オペレーションとしてはよいアイデアであると思うが、資料には金銭的な話が全く含まれていないし、持続可能な仕組みとなり得るかが心配である。どれくらい集積できれば採算が合うのか、消費や供給のバランスが保たれるのかなど、仮説をたてて検証する必要がある。
- ・ 詳細について煮詰めていかなければならないが、本委員会で全てを検討することはできないので、検討が必要な事項も含めて答申し、執行機関でより具体化できればよいのではないか。
- ・ 薪としての活用については、公共施設だけではなく、民間事業者や一般家庭にも広げていきたい。一般家庭に対しては、薪ストーブの設置に対して補助するという手段も考えられる。一方、民間事業者では他のエネルギーと比較してランニングコストが最低でも同水準にならないと導入・転換は難しい。ペレットであれば自動供給が可能であるが、薪となるとボイラーマンが常駐する必要があるなど、経費的によく検証する必要がある。山梨県道志村では、公共温泉施設において薪ボイラーの導入による経費の節減に成功している。
- ・ 薪を燃料として燃焼させた場合、焼却灰に含まれる放射性物質の濃度を調査するなど、その処理について、細心の注意を払う必要がある。現状、焼却灰は汚染の有無にかかわらず、役場で回収して処理している。

## ■ サッカータウン構想

- ・ 町でサッカータウン構想の基礎調査を行っており、複数のグラウンド建設候補地が示された。候補地であっても農地法や農業振興地域による規制などいくつかの制約があるなど、全てにおいて早急に建設をしようというものではないが、どのくらいの需要が見込めるか（連れてこようとするか）、どのような競合相手がいるか、どのくらいの経済効果が見込めるかなどをよく検証する必要がある。
- ・ 議会に対して猿ヶ京区から多目的グラウンドの建設の陳情があったが、本委員会で検討が行われている状態であるので継続審議とされ、本委員会からの答申を待って3月議会において議論を再開することとされた。
- ・ スポーツツーリズムは手段であって、大きな目的は観光振興である。顧客目線で考える必要があって、候補地が分散していることは非効率的であるが、町内には1か所に4面以上のグラウンドを整備できるような広大な土地の確保は困難である。
- ・ 資料では、サッカータウン構想の一部（スポーツツーリズム）しか示されていないので、（仮称）みなかみ町スポーツコミッションを中心として、Jリーグクラブとの連携やサッカーを通じた子ども達の交流などを含めたイラストとする。
- ・ グラウンドの設計や誘客などは実際に利用する方々の意見を反映させる必要があるので、本委員会で議論するというよりも、執行機関において専門委員会等を設置し、具体化していけばよいのではないか。

## ■ ふるさと納税

- ・ 資料は、ふるさと納税の仕組みを説明するにはわかりやすいが、地域を経営するという考え方をもっと強調したい。ふるさと納税の特典として農産物を贈呈することで耕作放棄地が解消されるだとか、宿泊券を贈呈することで来訪者が増え、旅館やホテルはもちろん、その他の産業へも効果が波及し、地域経済が活性化（循環）することを示したい。刺激策としてのふるさと納税ということになれば、特典として何を選ぶべきかという話にもなる。
- ・ また、資料では、ターゲットにどのようにリーチするか戦略が抜けている。100万人を超える宿泊客などの既存の顧客が一番の見込み客であるし、例えば、宮崎県綾町で配布しているようなカタログを、チェックアウト時に女将からパーソナライズ（顧客全員に同じサービスを提供するのではなく、一人一人の属性や購買履歴に基づいて最適化されたものを提供する手法）のように手渡しできればよいのではないか。
- ・ ふるさと納税を積極的に展開するにも目標値を設定すべき。目標を達成するための戦略を構築しないと、やる事が目的になってしまう。

## ■ クロスセル、アップセル

- ・ クロスセルは小さな単位ですすでに導入していて、導入に積極的なスキーエリアは客

数を着実に伸ばしている。大きな力とするためには行政や観光協会などが主導権を握ってやる必要がある。しかし、現状では観光協会へ加入するメリットがあまり感じられないためか、飲食店等の加入率が低いことが弊害となるかもしれない。

○ 観光課職員も交えて、議論を行う。

■ みなかみ18湯

- ・本町の温泉のブランドが散漫になっていて、強みを活かしきれていない。「にっぽんの温泉100選」には水上温泉がランクインしているが、顧客目線での差別化が図れていないし、「みなかみ18湯」というグループブランドによる戦略が構築できれば、上位にランクインできるのではないかと。各事業者には個別ブランドに併せてグループブランドを1割程度の割合で訴求してもらえばよいし、繰り返し消費者に届くことで認知率も高まっていく。
- ・観光関連組織についても、横串が刺さっていないために、マーケティングに無駄が多い。また、ユネスコエコパークという最大のチャンスが訪れるわけであるから、今から仕掛けをしておく必要がある。
- ・戦略を構築して実行するのは観光課の役割ではないか。観光関連業者や彼らで組織する協会・組合などは利害関係があるので、反発の力が強くなってしまふ。本町に顧客を誘致することが優先であって、各事業者は競合相手である前に運命共同体であるはずなのに、お互いを潰し合っている。
- ・マーケティングについては、点ではなくて線や面としなければならない。観光キャラバンなどの点の事業は実施しているようであるが、3000万人のマーケットに点の展開をしてもリーチできるのは数百人程度でしかない。予算や時間にも限りがあるのだから、戦略的に点をつなげて線にして、さらに何らかの手法で面を取りに行かなければならない。

(2) 今後の委員会の進め方について

- ・事務局において優先順位の高いアクションプランについてのイメージ図を作成（修正）し、引き続き検討を行う。

3 次回委員会の開催について

○ 次回の委員会について、次のとおり日時と場所が決まる。

日時：1月9日（金） 午後2時30分から

場所：事務局より改めてアナウンス

4 閉会